

閑谷集

旅宿ほたる

ほたるをもやがてこすげにかりこめて

玉ぬきむすぶ草まくらかな

宿善生利

さきのよにあつめし雪とほたるこそ

われをさとの身の身とはなしけれ

「国歌大観」より